
空の色

枝豆

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空の色

【Nコード】

N7421A

【作者名】

枝豆

【あらすじ】

恋という感情。私には、それが分からなくて。初めての恋に戸惑う彼女の姿を書いてみました。

「うわぁ、きれい。」

部活帰りの、夕焼け空。雲と夕日がけして絵の具では出せない澄んだ色を成していた。

学校からの帰り。私の隣には最近彼氏ができた友達がいる。

私の周りでは、今たくさんの人が恋をしている。

実る人もいれば、終わる人もいる。

でも、私にはその「恋」という感情が分からなくて。

だから、私は「あの人」へ向けられるこの気持ちをなんて、表現しづらいか分からない。

友達に言わせると、

「恋ってのは、分からない感情のことを言うんだよ。」
だそうだ。

確かに、「あの人」への感情は分からない。

好きでもない。嫌いでもない。

傍にいてくれると嬉しい。でも、普段は意識はしていない。

でも、分かっていた、

彼が、私の中で特別な存在になっていること。

部活のとき、ホームランを打ったときのあの嬉しそうな笑顔。

私は、それだけの動作で胸が高鳴ってしまう。

「じゃあ。また明日。」

私が歩いていると、隣を自転車で走り抜けていく。
あなたが口にする言葉で、声で、

特別な存在。ただそれだけなのだろうか。

あれから、どのくらいたったのだろうか。

私は、また同じ道を歩いていた。
隣には、私の気になるあの人。

「今日は、一緒に帰ろうよ。」

初めて、一緒に帰るこの道。

あのときの同じ夕焼け空。でも、所々あの時の違う。

少し、夜を思わせる「青」が混ざっている。

その色は、彼の色。

私にさまざまな変化を与えてくれる彼。

「みな。」

彼の声。私は、はっとして振り返る。

さっきから、ずっと夕焼け空を見、彼のことを考えていた。

「俺、お前のことが好きだ。」

彼からの告白。

私はなんて返事したらいいかわからなくて。

「・・・。」

夕焼け空が、少しずつ「青」の世界に染まっていく・・・。

（後書き）

読んでいただきありがとうございます。

少し、意味が分からないかもしれませんが、多めに見てあげてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7421a/>

空の色

2011年10月3日03時07分発行